

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立中央中学校	校長	國崎 康裕	生徒指導主事	岡村 雄二
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『縦割り活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協働性」	1	「態度・価値観」	3	「課題発見・解決力」	2

取組のねらい『キーワード CHUO PRIDE』

○年間を通して縦割り活動を仕組むことで上級生には先輩としての自覚を持たせ、中央中学校の伝統を継承していくとともに、異学年の中で互いに活動していくことで共感的人間関係を育み、自己存在感を養っていく。また、活動を通して中央中の一員としての自覚と誇り（CHUO PRIDE）を持たせる。



取組の具体的内容『キーワード 生徒主体』

○新入生歓迎遠足

実施日が雨のため遠足は中止となったが生徒会が主体となり、生徒会レクリエーションを行った。学年・学級を超えた生徒相互の交流を実施することができた。



○体育大会

縦割りの体育大会になって4年目となった。生徒主体で練習内容やメンバーを決めていった。全校ダンスも縦割りによる練習を行い、学年を問わず生徒間で教えあったり指摘しあったりする姿が見られた。



○文化祭

合唱コンクールや「日本の歌『四季』」の発表に向けて3年生が1・2年生の指導していく流れができてきた。



○部活ボランティア（年2回）

各部活で場所や活動内容を話し合い、自分たちにできる事を考え実施した。



地域での花植え



ゴミ拾い



地域の公園清掃

取組の課題・創意工夫『キーワード PDCAサイクル』

○1年間を通しての縦割り活動が始まり3年目となった。ある程度、生徒会やリーダーとなる3年生の動きや流れができ、様々なアイデアが出るようになってきた。しかし、教員とリーダーとの打ち合わせや取組を行う時間の確保がなかなかできず、打ち合わせ等が直前になることも多かった。また、様々な取組を入れていくだけではやることばかりが増え、効果的な活動にならない。実態に合わせて改善していく必要がある。生徒の主体性を高め、より効果的な活動にしていくためには、よりしっかりとした計画が必要である。

取組の成果（効果）『キーワード 伝統』

○生徒を対象とした生活に関するアンケートでは「学校行事・生徒会行事に満足している」という質問に対して肯定的回答は92.3%であった。また、「黙動流汗清掃の意義を理解し、無言で掃除している」97.9%、「部活集合に遅れず集合し、充実した部活動ができています」97.1%、「全校合唱日本の歌「四季」を自ら進んで取り組んでいる」95.2%と肯定的な意見はどれも高い数値を示している。縦割り活動を通して先輩にあこがれを持ち、生徒会活動や学校行事にやりがいを持つ生徒が増加してきた。

今後の展開『キーワード 継承』

○生徒会が主体となり、自分たちで考え計画し、行っていくことで学校行事や生徒会行事にやりがいや自己肯定感が高まり、縦割りでの活動が中央中学校の伝統となりつつある。650名を超える生徒がいるため生徒の考えも多種多様である。その年度の生徒の実態等も考慮した縦割りの活動を仕組んでいかなければならない。

他教科との関わり『キーワード 課題発見・解決学習』

○各教科では『主体的・対話的で深い学び』のある授業の創造をテーマに授業を展開している。自ら考え判断する生徒、生徒の興味・関心を促しながら意欲的に学習する生徒を育成している。縦割り活動では目標に向かって自分たちのやるべきことを明確にし、課題解決に向けての取組が仕組まれている。グループやペア活動ではリーダーを中心に活動が活性化している。